

県央地域の各歯科医師会における「在宅医療を担う人材の確保・育成」の取組状況等

○ 厚木歯科医師会	-----	1
○ 大和綾瀬歯科医師会	-----	4
○ 海老名市歯科医師会	-----	5
○ 座間市歯科医師会	-----	6

在宅医療・介護連携に係る調査

団体名 厚木歯科医師会

担当者名 事務局長 石塚 修

検討項目	取組状況	考え、課題等
人材確保・育成 (訪問診療、服薬指導、多職種連携、環境整備等、在宅を担う人材に係る諸課題)	別紙のとおり	

I 検討項目

人材確保・育成（訪問診療、多職種連携、環境整備等、在宅を担う人材に係る諸課題）

II 現状分析、課題、取組状況 等

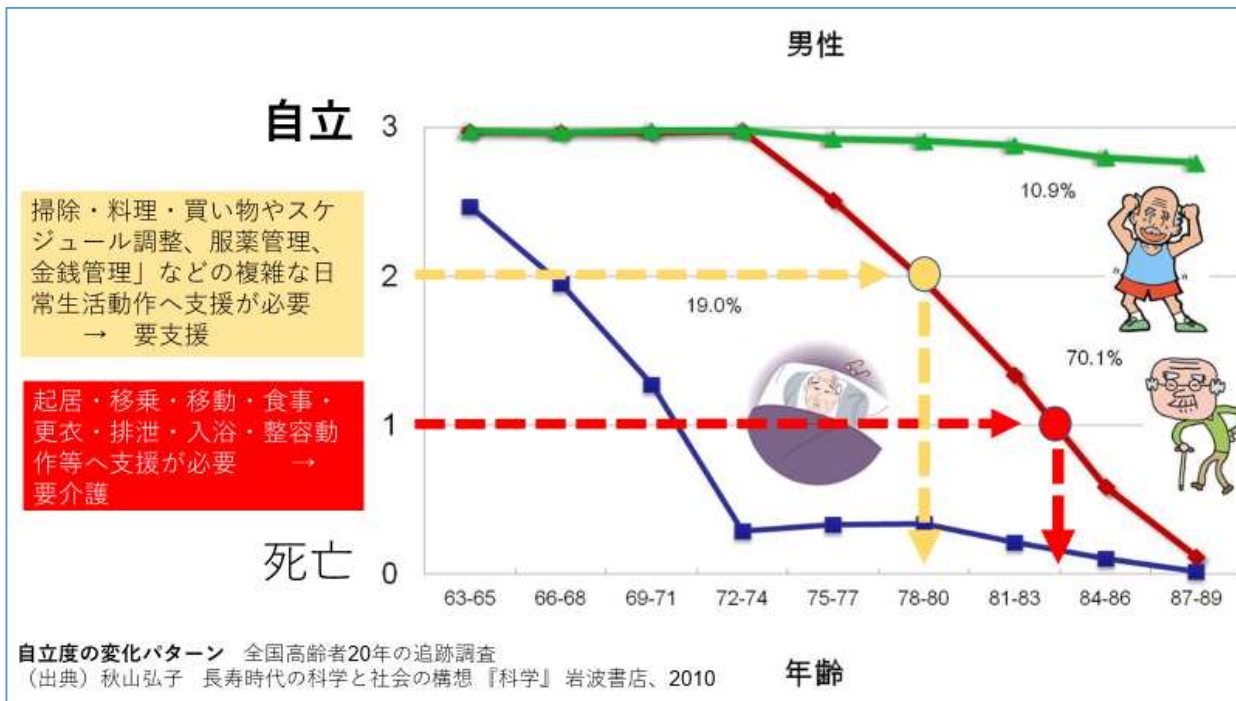
1 重度要介護者等（ADL 低下高齢者）の増加

国立社会保障・人口問題研究所
National Institute of Population and Social Security Research

日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）

厚木市	0～4歳	5～9歳	10～14歳	計	80～84歳	85～89歳	90歳以上	計
2020年	8,292	8,941	9,844	27,077	8,123	4,395	2,510	15,028
2025年	7,483	8,507	9,009	24,999	10,750	5,958	3,401	20,109
2030年	7,143	7,694	8,575	23,412	13,098	7,956	4,548	25,602
2035年	6,904	7,360	7,761	22,025	10,599	9,900	6,095	26,594
2040年	6,651	7,128	7,429	21,208	8,839	8,064	8,049	24,952
2045年	6,312	6,881	7,200	20,393	10,055	6,818	7,906	24,779
対2020年								
減少率	0～4歳	5～9歳	10～14歳	計	80～84歳	85～89歳	90歳以上	計
2025年	90.2%	95.1%	91.5%	92.3%	132.3%	135.6%	135.5%	133.8%
2030年	86.1%	86.1%	87.1%	86.5%	161.2%	181.0%	181.2%	170.4%
2035年	83.3%	82.3%	78.8%	81.3%	130.5%	225.3%	242.8%	177.0%
2040年	80.2%	79.7%	75.5%	78.3%	108.8%	183.5%	320.7%	166.0%
2045年	76.1%	77.0%	73.1%	75.3%	123.8%	155.1%	315.0%	164.9%

★2035年（15年後）以降、85歳以上の高齢者は、2020年比で2倍～3倍に増加。



★人間は、80歳以降に多くの高齢者が重度の要介護状態となる

⇒ 重度要介護者（ADL 低下）、通院困難者の増加

↓

在宅歯科（口腔機能管理、居宅療養管理）需要の急増

2 急増する口腔機能管理（居宅療養管理）需要と課題

口腔機能管理スタッフ（歯科医師+歯科衛生士）の歯科医療資源（マンパワー）予測

⇒ ★★現状において既に歯科衛生士不足（下表：神奈川県保健医療計画）

【表 1 施設あたりの歯科衛生士数】

歯科診療所数		歯科診療所に就業している 歯科衛生士数		1施設あたりの 歯科衛生士数	
全国	神奈川県	全国	神奈川県	全国	神奈川県
68,935	4,998	112,211	7,250	1.6	1.5

出典：（歯科診療所数）厚生労働省「医療施設動態調査（平成28年12月末概数）」
（歯科診療所に就業している歯科衛生士数）厚生労働省「平成28年衛生行政報告例」

3 歯科衛生士確保に向けた課題

★より一層の少子化の進展によって、新卒者の確保が困難

★ほぼ100%が女性であり、出産・子育て等が要因の離職が多い

*十分な臨床経験（在宅歯科）を積んだ歯科衛生士の育成には、相当期間が必要

⇒ 10年後の課題解決には、今からの取り組みが不可欠

4 歯科衛生士不足の解決に向けた施策（取組状況）

(1) 新規資格者の拡大【県：県立高校を中心とした進路指導】

⇒ 高校生の進学先として、大学、専門学校への誘導

厚木歯科医師会・映画鑑賞補助事業の実施

(2) 潜在歯科衛生士を対象とする復職支援

⇒ 歯科医師会+歯科衛生士会による「復職支援プログラム」の開発

☆ 歯科衛生士会の組織力強化



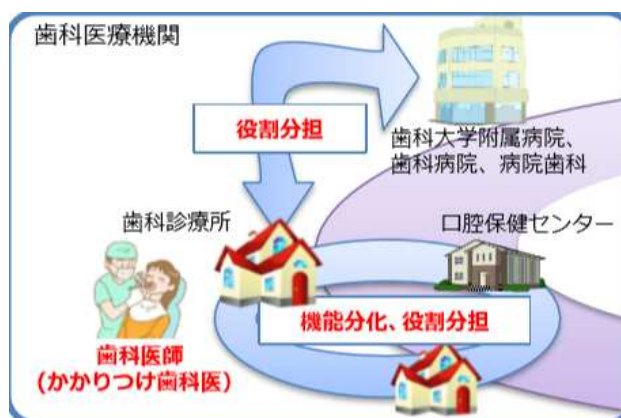
5 在宅歯科医療（1次）と仮）口腔機能管理センター（口腔保健センター）の開設

★在宅歯科の施術は限定的

高齢者の口腔機能の向上・保全のために、より高度な医療処置が可能な診療施設

⇒ 2次歯科医療機関としての仮）口腔機能管理センター（口腔保健センター）

1次⇔2次の歯科・歯科連携により、患者の口腔機能を維持・確保



6 仮）口腔機能管理センター開設の課題

(1) 運営スタッフの確保（2次歯科医療）

(2) 通院困難患者＝ハイリスク高齢者への医科との連携・支援

(3) 通院困難者の移動手段（福祉車両の確保、運転手等の人件費等の確保）

在宅医療・介護連携に係る調査

団体名 大和綾瀬歯科医師会

担当者名 近藤 清志

検討項目	取組状況	考え、課題等
<p>人材確保・育成 (訪問診療、服薬指導、多職種連携、環境整備等、在宅を担う人材に係る諸課題)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県歯科医師会在宅歯科医療推進研修会(平成27年以前は神奈川県摂食・嚥下障害歯科医療担当者研修会)を15名が受講 ・グループホームや介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム等16施設から訪問の依頼 ・在宅歯科診療所設備整備事業に18名が申請 ・地域連携室として大和保健医療福祉ネットワークに参加綾瀬地域包括支援センターの会議に出席 介護サポーター養成講座の講師として講演 包括支援センターや居宅介護支援事業所等へ歯科衛生士が訪問し連携の強化を図る ・大和市立病院や回復期病院との医科歯科連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護施設や包括支援センター地域連携室の紹介活動を進めていきたい ・課題としては在宅歯科医療においてより多くの実践経験を積み重ねていきたい

在宅医療・介護連携に係る調査

団体名 海老名市歯科医師会
 担当者名 石渡 正 久

検討項目	取組状況	考え、課題等
<p>人材確保・育成 (訪問診療、服薬指導、多職種連携、環境整備等、在宅を担う人材に係る諸課題)</p>	<p>1)神奈川県歯科医師会の事業である地域連携室において衛生士さんを海老名市歯科医師会事務局に配置して市民からの在宅診療に対する質問や依頼に対応している。</p> <p>2)在宅歯科診療ができる人材育成としては神奈川県歯科医師会の在宅歯科医療推進研修会と海老名市三師会の多職種連携研修会への参加により少しずつ在宅ができる歯科医を増やしている。</p>	<p>1)在宅ができる人材がまだ少ないこと。</p> <p>2) 2021年4月より海老名市役所と海老名市三師会で在宅医療相談室を立ち上げようとしていること。</p>

在宅医療・介護連携に係る調査

団体名 座間市歯科医師会

担当者名 須藤真行

検討項目	取組状況	考え、課題等
<p>人材確保・育成 (訪問診療、服薬指導、多職種連携、環境整備等、在宅を担う人材に係る諸課題)</p>	<p>連携室を設け、常に往診に対応できるようにしている</p> <p>包括ケア会議等に参加し、地域の他団体と地域の連携について話し合っている</p> <p>訪問に行ける体制がかなり整い始めている。人材等もそろってきた。</p> <p>学術的知識の習得として、様々な外部講師をお呼びし、研鑽を積んでいる</p> <p>連携室と他の他団体との連携がまだ未開発</p>	<p>在宅の連絡はまだ少ないので地域の人たちへのPRが必要</p> <p>あまりに団体が多いため、まだ連携ができていないように思われる</p> <p>在宅の必要性がまだまだ認知されていないように思われる</p> <p>地域の専門職も一緒に連携を取りながら、勉強していきたい</p> <p>他団体との顔の見える関係づくりが必須</p>

在宅医療・介護連携に係る調査

団体名 座間市歯科医師会

担当者名 新野見昇一

検討項目	取組状況	考え、課題等
<p>人材確保・育成 (訪問診療、服薬指導、多職種連携、環境整備等、在宅を担う人材に係る諸課題)</p>	<p>人材確保に関して、広告媒体による求人募集における確保は業界問わず、厳しい状況といえることは、周知のとおり。現状、在宅連携室の衛生士スタッフの知人、歯科医師の知人衛生士の人脈を頼りに、採用に至っている。</p> <p>歯科医師会主催の講習会にも衛生士にも積極的に参加してもらい、知識の補充に努めてもらっています。</p>	<p>人材確保、主に歯科衛生士となりますが、現役を離れている歯科衛生士の掘り起こし、そして技術的な支援などを歯科医師会のみならず、在宅・介護にかかわる人達との連携で取り組むことが課題であると思われます。</p> <p>特に介護医療の人材不足という観点においては、海外からの人材確保もこれからはやむをえないところである。行政的支援は、もとより、各種地域団体の協力のもと、研修をしていく必要と継続性が必要と思います。</p>
<p>歯科在宅医療連携室の認知度の向上</p>	<p>ポスター、リーフレットなどを利用して多職種連携を図り、在宅医療連携室の周知を行っている。</p>	<p>座間市にも座間市地域連携室があり、市の連携室とも連携をとり、在宅医療が行えるということを市民にもっと知っていただくよう活動する。</p> <p>歯科医師会としても、医科歯科連携の講習会を行い、歯科医師にとらわれず、各種団体の参加をよびかけ、よりしっかりした知識の共有を図り、在宅医療のクオリティをあげることに取り組んでいます。</p>